

平成 30 年度厚生労働省老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業）

介護人材の機能分化促進に向けたチームリーダーとなる
介護福祉士の育成に係る研修ガイドライン策定事業

別冊

チームリーダー実践・指導力向上研修
ガイドライン

平成 31 年 3 月

公益社団法人日本介護福祉士会

介護人材の機能分化促進に向けたチームリーダーとなる介護福祉士の育成に係る研修ガイドライン策定事業
チームリーダー実践・指導力向上研修ガイドライン

<目次>

1. 研修の目的	2
2. 本ガイドラインの構成.....	2
3. 研修の概要	2
(1) 対象者	2
(2) 実施方針	2
(3) 実施方法	3
(4) 集合研修の手法の特徴	3
(5) 評価方法	3
4. 修得目標	4
5. 研修カリキュラム	5
6. 研修テキスト及びファシリテーターガイダンスの概要	15
7. 通信学習教材、演習用の映像)の概要	16
8. 演習用の映像教材の概要	17
9. 研修受講の手引き	18
10. 研修運営の手引き	25
11. 評価ツール	35

1. 研修の目的

リーダー業務に従事し始めた介護福祉士が、「高度な技術を有する介護の実践者としての役割」、「介護技術の指導者としての役割」に関する知識・技術を習得するとともに、それを業務実践に活かし、振り返りを行う方法を習得することを目的とする。

2. 本ガイドラインの構成

本ガイドラインは、以下の内容で構成されている。

- ・ 研修の目的、概要
- ・ 修得目標
- ・ 研修カリキュラム
- ・ 研修テキスト及びファシリテーターガイダンスの概要
- ・ 通信学習教材の概要
- ・ 演習用の映像教材の概要
- ・ 研修受講の手引き
- ・ 研修運営の手引き
- ・ 評価ツール

3. 研修の概要

(1) 対象者

以下の条件をすべて満たす人とする。

- ①介護福祉士ファーストステップ研修を修了した人(又は同等の研修履歴がある人)
- ②介護職の小チーム(ユニット等、5～10名の介護職によるサービス提供チーム)のリーダー(ユニットリーダー、サービス提供責任者等)や、初任者等の指導係に就いている人(リーダーとしての実務経験を概ね1～3年程度有することが望ましい)

(2) 実施方針

- ・ 実践力・指導力の向上を図る
- ・ 実践力・指導力の向上に向けた自らの成長課題とチームの課題を認識させ、解決に取り組む意欲を高める。
- ・ 業務における実践計画と、その振り返りを軸として、研修で学んだ内容の定着を図る。
- ・ 講師や研修参加者とのコミュニケーションを通じて、経験の振り返りを促進する。
- ・ 法人内の上司やリーダーとの関わりを引き出す。
- ・ リーダーとしての悩みを相談しあえるネットワークづくりを促す。

(3) 実施方法

- ・ 受講者の業務負担を考慮し、知識の習得に関しては通信学習（イーラーニング）を取り入れ、集合研修の時間数を最小限に留める。
- ・ 認定介護福祉士養成研修との接続を考慮し、出来る限り、同研修の科目を活用する。
- ・ 専門職と法人側が協働でチームリーダー養成を行うという観点から、複数の関係団体が受講者募集を協働で行い、受講者はサービス種別を超えて一緒に受講する。
- ・ 認定介護福祉士養成研修（Ⅰ類）の「リハビリテーションに関する領域」に含まれる「生活支援のための運動学」及び「生活支援のためのリハビリテーションの知識」の 2 科目の読み替えを可とする。
- ・ 通信学習の到達度試験（正答率 60%以上で合格）について、不合格の場合は再試験とする（複数回の受験可）。
- ・ ファシリテーターは、各地域の認定介護福祉士や各種研修の指導者、リハビリテーション専門職が担当する。研修などでのファシリテーター経験を一定程度持っていることが望ましい。

(4) 集合研修の手法の特徴

- ・ 事前課題を活用して、受講者に学習課題の設定を促すとともに、研修運営側は研修の内容や実施方法を調整する。
- ・ アクションラーニングの手法を基盤とし、通信学習で学んだ知識の確認（講義）と、事例を用いたグループワークや自身の実践の振り返り（演習）、職場実践を組み合わせる。
- ・ 各グループの人数は 4～6 名程度とし、受講者数に応じて調整する。

(5) 評価方法

- ・ 事前課題を通じて受講者自身が研修を通じて得たいこと（学習課題）を設定した上で、その達成状況を各回の終了後の受講者アンケートや集合研修を通じて評価する。
- ・ 受講者アンケート及びインタビュー、講師・ファシリテーターアンケートを実施し、研修内容やテキストの見直し等に活用する。

4. 修得目標

	<u>チームリーダーが担うべき役割</u>	<u>本研修プログラムの修得目標</u>
高度な知識・技術の有する介護の実践者	認知症の症状に応じた対応	認知症の方への基本的な対応を指導する方法を習得する
	医療やリハビリの必要性が高い方への対応	医療やリハビリの必要性が高い利用者の運動生理を理解する
	終末期の方に対する看取りを含めた対応	(今回は対象外とする)
	障害の特性に応じた対応	障害特性(麻痺等)を踏まえた対応を根拠をもって実践し、それを説明できるようになる
	複合的な支援ニーズを抱える家族等への対応	(今回は対象外とする)
介護技術の指導者	介護職に対する能力開発(介護技術の指導や助言)	基本的動作・姿勢を介助する初任の介護職に対して、根拠をもって指摘する方法を習得する
	その能力を引き出す支援(適切な業務・役割の配分やスーパーバイズ)	初任の介護職への業務・役割の配分の工夫事例を知った上で、自らのチームでの実践計画を作り、研修期間中に実践する

5. 研修カリキュラム

(1) 全体カリキュラム

実施方法	内容	時間数
①通信学習	<ul style="list-style-type: none"> 生活支援のための運動学 生活支援のためのリハビリテーションの知識 ※イラーニング教材及び指定教本「学生のためのリハビリテーション医学概論」(医歯薬出版)を活用	13.5 時間
②事前課題	<ul style="list-style-type: none"> スタッフの中から「面談と OJT 実践書作成・運用」の指導対象としたい人を選び、「事前課題シート」に記入する 	-
③集合研修 1 日目	<ul style="list-style-type: none"> 指導法に関する講義・演習 「職場実践計画①(面談と OJT 実践書作成・運用)」の作成 生活支援のためのリハビリテーションの知識に関する講義・演習 	6 時間
④集合研修 2 日目	<ul style="list-style-type: none"> 生活支援のためのリハビリテーションの知識に関する筆記試験 基本的動作・姿勢の実践及び指導に関する講義・演習・総合討議 「職場実践計画②(基本的動作・姿勢の実践と指導)」の作成 	6 時間
⑤職場実践	<ul style="list-style-type: none"> 職場実践計画①、②に基づく取り組みの実施 「振り返りシート」の作成 	(1~2ヶ月間)
⑥集合研修 3 日目	<ul style="list-style-type: none"> 「振り返りシート」に基づく職場実践の共有 研修のまとめ 	6 時間

(2) 個別カリキュラム

①通信学習

時間	セクション	内容	教材
科目「生活支援のための運動学」(450分)			
250分	自己学習(項目1～3)	・項目1(身体表面のランドマークの名称)、2(骨、関節、筋、中枢神経、末梢神経などの解剖・生理)、3(内部器官の運動時の生理)の自己学習を行う。	指定教本(第4、5、10、11章)
50分	イーラーニング聴講(項目1～3)	・項目1～3に関するコンテンツ①(10分)、②(23分)、③(17分)を聴講する。	e-learningコンテンツ①、②、③
-	到達度試験(項目1～3)	・筆記試験(34問)	到達度試験(項目1～3)
100分	自己学習(項目4、5)	・項目4(身体運動の基本的知識(関節可動域、筋力、運動の方向、動作))、5(運動の基本的な力学的考え方(モーメントなど))の自己学習を行う。	スライド資料(ダウンロードして入手)
20分	イーラーニング聴講(項目4、5)	・項目4、5に関するコンテンツ④(8分)、⑤(12分)を聴講する。	e-learningコンテンツ④、⑤
-	到達度試験(項目4、5)	・筆記試験(15問)	到達度試験(項目4、5)
25分	自己学習(項目6)	・項目6(摂食嚥下における解剖・運動生理)の自己学習を行う。	指定教本 p157～160(第7章 1.脳血管障害 4)機能障害 1.嚥下障害)
5分	イーラーニング聴講(項目6)	・項目6に関するコンテンツ⑥(5分)を聴講する。	e-learningコンテンツ⑥
-	到達度試験(項目6)	・筆記試験(5問)	到達度試験(項目6)

科目「生活支援のためのリハビリテーションの知識」(360分)			
150分	自己学習(項目1)	<ul style="list-style-type: none"> ・項目1(リハビリテーションの理念)の自己学習を行う。 	指定教本(第1、2、3章)
30分	イーラーニング聴講(項目1)	<ul style="list-style-type: none"> ・項目1に関するコンテンツ⑦(30分)を聴講する。 	e-learningコンテンツ⑦
-	到達度試験(項目1)	<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験(15問) 	到達度試験(項目1)
155分	自己学習(項目3)	<ul style="list-style-type: none"> ・項目3(各日常生活動作における各関節・筋の運動、および上肢・体幹・下肢の相互関係)の自己学習を行う。 	スライド資料(ダウンロードして入手)
25分	イーラーニング聴講(項目3)	<ul style="list-style-type: none"> ・項目3に関するコンテンツ⑧(25分)を聴講する。 	e-learningコンテンツ⑧
-	到達度試験(項目3)	<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験(13問) 	到達度試験(項目3)

②事前課題

- 職場実践で受講者が指導を行う職員（候補）を1名選んだ上で、事前課題シートに記入する。
1. 指導対象候補の職員はどのような人ですか。
 - 職場の後輩職員のなかから、指導対象候補を1名選び、その人について記入してください。
 - 職員の氏名は記入しないでください。
 - 職場実践では、その職員と面談を行い、今後の目標を設定して、具体的な学習計画を作成します。これからの成長を特に期待したい職員を候補に選ぶとよいでしょう。
 2. 指導対象候補の職員の認知症ケアの知識、経験、強みを教えてください。
 - 指導対象候補の職員の認知症ケアに関する知識（研修の受講歴、取得した資格など）、経験（経験年数、経験実績など）、強み（得意なこと、上手なことなど）について、あなたがわかる範囲で記入してください。
 3. 指導対象候補の職員とともにケアをより良くしたい利用者はどのような人ですか。
 - 自施設の利用者のなかから、指導対象候補の職員とともにケアをより良くしたい人を1名選び、その人の状態像や生活上の目標（あるいはケアの課題）を記入してください。
 - 利用者の氏名は記入しないでください。

③集合研修 1 日目

時間(配分)	セッション	内容	使用教材
10:00(5分)	趣旨と進め方の説明	○研修のねらい、位置づけの理解 ○タイムテーブルと学習内容の説明	・集合研修テキスト
10:05(115分)	講義・演習	○人材育成手法に関する講義・演習(適宜ペアワークを実施) ・人材育成の手法の種類・特性、OJTの基本的な方法 ・ティーチング、コーチング(自己紹介や伝達、助言などのペアワークを実施) ＜詳細タイムテーブル＞ ・進め方の説明:8分 ・人材育成の手法と種類・特性:8分 ・OJTの基本的な方法:9分 ・ティーチング:60分 - ペアワーク5分(説明3分、自己紹介1分×2名) - 伝達トレーニング30分(説明10分、演習5分×2名、説明10分) - ジョブ・インストラクション 説明15分 - 助言トレーニング10分(説明6分、演習2分×2名) ・コーチング:25分 - 自己紹介4分(2分×2名) - 言葉当てゲーム(演習1分×2名) - 説明19分	・集合研修テキスト
12:00(60分)	休憩		
13:00(60分)	講義・演習	○OJT実践書の作成・運用に関する講義・演習 ・目標管理の考え方と個別面談の意義:25分 ・OJT実践書(指導対象者の学習計画及び指導者の指導計画)の意義、作成方法 ・事前課題を踏まえた職場実践計画①(面談とOJT実践書作成・運用)の作成(個人ワーク) ＜詳細タイムテーブル＞ ・目標管理の考え方と個別面談の意義:説明25分 ・職場実践で個別面談を行ってみよう:35分 - フォアシリテーション自己紹介5分	・集合研修テキスト ・事前課題シート ・職場実践計画①(面談とOJT実践書作成・運用)

			<ul style="list-style-type: none"> - 職場実践計画①の作成 25分 - 今後の進め方の説明 5分 	
14:00(10分)	休憩			
14:10 (150分) ※適宜小休憩を挟む	講義・演習		<p>○生活支援のためのリハビリテーションの知識に関する講義・演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・項目 2(心身の評価とアプローチ)、4(運動学的視点を生活支援に活かす考え方)、5(生活支援の中で活かすリハビリテーションの視点)に関する知識・技術について学習する。 ・具体的には、脳卒中片麻痺の利用者の事例動画(利用者の状態像、動作、生活環境など)や利用者情報シートを見ながらグループワークを行うことで、リハビリテーションの視点を心身の評価や生活支援にどのように活かすかを実践的に学ぶ。 <p><詳細タイムテーブル></p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題 2 の説明(10分) ・課題 1 を踏まえて、スモールグループディスカッション(SGD)で指導方法の検討を行う。(110分) ・発表(30分) 	<ul style="list-style-type: none"> ・集合研修テキスト ・指定教本 ・患者情報シート ・ポストイット イーゼルパッドまたは横造紙
16:40(20分)	本日のまとめ		<p>○本日のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者アンケートの記入 	<ul style="list-style-type: none"> ・受講者アンケート
17:00	終了			

④集合研修 2 日目

時間(配分)	セクション	内容	使用教材
10:00(5分)	本日の進め方の説明	○タイムテーブルと学習内容の説明	・集合研修テキスト
10:05(25分)	筆記試験・解説	○「生活支援のためのリハビリテーションの知識」の項目 2、4～7の筆記試験	・到達度試験(24問)
10:30(160分+ 昼休憩 50分)	講義・演習・ 総合討議	○基本的動作・姿勢の実践に関する講義・演習・総合討議 <ul style="list-style-type: none"> ・脳卒中片麻痺の利用者の事例動画を見ながら、「活動性を上げていくにはどうしたら良いか」についてグループで討論を行う。 ・検討の視点は、①必要な評価や障害特性(討論後に講師から提示)、②日常生活動作の困難さ、③ボディメカニクスを生かした介助方法の工夫、④介助方法の選択、補装具の使用、福祉用具の使用 ＜詳細タイムテーブル＞ ・映像1,2と、新たに映像3(生活環境)を視聴した上で、課題1(生活場面ごとの改善点の検討)の進め方について説明する。(20分) ・1日目に話し合ったケア方法を踏まえ、ワークシートも参考にしながら、SGDで課題1に取り組む。(80分) ・昼休憩(50分) ・課題1について全体発表を行う。(60分) <ul style="list-style-type: none"> - 各グループ 10分(発表6分+質疑4分)×3グループ - 全体コメント(15分) - ワークシートを用いた個人ワーク(15分) 	<ul style="list-style-type: none"> ・集合研修テキスト ・指定教本 ・事例映像1～4 ・職場実践計画②(基本的動作・姿勢の実践と指導) ・ポストイット イーゼルパッドまたは模造紙
14:00(150分)	講義・演習・ 総合討議	○基本的動作・姿勢の指導に関する講義・演習・総合討議 <ul style="list-style-type: none"> ・基本的動作・姿勢を例にして、テイーチングの技法(標準的な手順の説明、実践に対する根拠に基づく指摘、改善に向けた提案など)についてグループで討論を行う。 ・討論結果について、実技を交えながら発表する(運動学的視点についての実技試験に相当する)。 ・職場実践計画②(基本的動作・姿勢の実践と指導)を作成する。(個人ワーク) ＜詳細タイムテーブル＞ ・課題2(新人職員にケア方法を指導する場合、どのような点に配慮するか)の進め方に 	

		<p>ついて説明する。(10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 休憩(10分) • 課題1で話し合ったケア方法を踏まえ、SGDで課題2に取り組む。ベッド、車いすなどを使用し、実際の動作で確認する。(85分) • 課題2について全体発表を行う。(45分) <ul style="list-style-type: none"> - 各グループ 10分(発表6分+質疑4分)×3グループ - 全体コメント(15分) <p>○本日のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> • 受講者アンケートの記入 	
16:30(30分)	本日のまとめ		• 受講者アンケート
17:00	終了		

- ⑤職場実践(1～2ヶ月間)
- 1) OJT 実践書作成・運用
 - 「職場実践計画①(面談とOJT 実践書作成・運用)」に基づき、指導対象者との面談を行うとともに「OJT 実践書(案)」を作成する。
 - 面談やOJT 実践書作成の過程で実施したことや成果・課題を「振り返りシート①(面談とOJT 実践書作成)」に記入し、「OJT 実践書(案)」と合わせて研修(3日目)に持参する。
 - OJT 実践書に基づいて実際に運用をするのは任意とする。

- 2) 基本的動作・姿勢の実践と指導
 - 「職場実践計画②(基本的動作・姿勢の実践と指導)」に基づき、自らの業務での実践と、OJT を通じた指導を行う。
 - 実践・指導の過程で実施したことや成果・課題を「振り返りシート②(基本的動作・姿勢の実践と指導)」に記入し、研修(3日目)に持参する。

職場実践計画①(面談とOJT実践書作成)	
①面談の前の準備	研修ID: <input type="text"/>
②面談の進め方	
③OJT実践書作成の進め方	

職場実践計画②a (基本的動作・姿勢の実践)	
①実践を行う時期	②想定する生活場面
③想定する利用者の状態像	
④実践にあたって工夫したい点、留意したい点	

職場実践計画②b (基本的動作・姿勢の指導)	
①想定する指導対象者	②想定する生活場面
③想定する利用者の状態像と、生活上の目標 (あるいは7アの課題)	
④指導方法 ※動画7アの活用や録画など	
⑤指導にあたって工夫したい点、留意したい点	

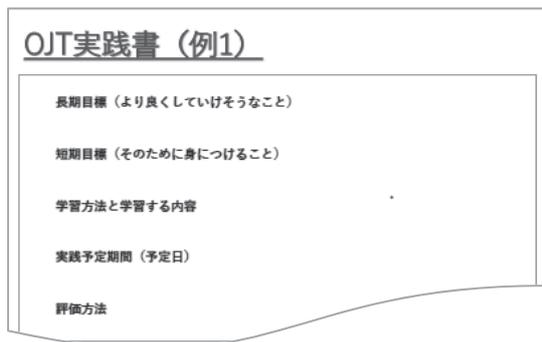
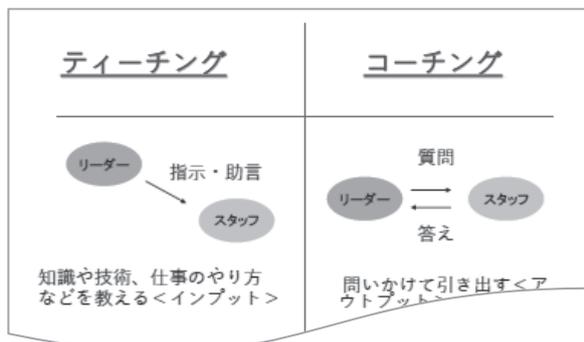
⑥集合研修3日目

時間(配分)	セクション	内容	使用教材
10:00(5分)	本日の進め方の説明	○タイムテーブルと学習内容の説明	・集合研修テキスト
10:05(145分)	総合討議	○面談とOJT実践書作成・運用の振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・「振り返りシート①(面談とOJT実践書作成・運用)」に基づいて各自が発表を行い、OJT実践書の内容や運用方法の改善点を話し合う。 ・全体共有を踏まえ、「行動プラン①(面談とOJT実践書作成・運用)」を作成する。(個人ワーク) 	・振り返りシート① (面談とOJT実践書作成・運用) <ul style="list-style-type: none"> ・行動プラン①(OJT実践書の運用)
12:30(60分)	休憩		
13:30(170分)	総合討議	○基本的動作・姿勢の実践と指導の振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・「振り返りシート②(基本的動作・姿勢の実践と指導)」に基づいてグループで成果や課題を共有し、今後の実践及び指導の改善点を話し合う。 ・グループでの討議や全体共有を踏まえ、「行動プラン②(基本的動作・姿勢の実践と指導)」を作成する。(個人ワーク) 	・振り返りシート② (基本的動作・姿勢の実践と指導) <ul style="list-style-type: none"> ・行動プラン②(基本的動作・姿勢の実践と指導)
16:20(10分)	休憩		
16:30(30分)	研修のまとめ	○「リーダーとして今後取り組みたいこと」の一言発表 <ul style="list-style-type: none"> ・受講者アンケートの記入(個人ワークの振り返りを兼ねる) ・各受講者が「リーダーとして今後取り組みたいこと」を一人1分で発表する。 ○今後の実践・指導にかかる心構え <ul style="list-style-type: none"> ・講師からのメッセージ ・継続学習に向けた推奨教材・研修等の紹介 	・集合研修テキスト <ul style="list-style-type: none"> ・受講者アンケート
17:00	終了		

6. 研修テキスト及びファシリテーターガイダンスの概要

- 研修テキストには、集合研修の講義内容の要点や演習の進行方法、各種ワークシートの雛形が掲載されている。
- ファシリテーターに対しては、グループワークへの関わり方の留意点を伝えるファシリテーターガイダンスを用意している。

ケアの指導方法のテキスト(抜粋)



疾患・障害等がある人への基本的動作・姿勢に関するケアの実践と指導方法テキスト(抜粋)

スモール・グループ・ディスカッション(SGD)とは、

与えられたテーマについて、グループで考えて、何かを作ったり、結論を出したりすること。

- テーマや時間、ルールなどが伝えられる
- 自己紹介をする。学校名や氏名などを伝え、簡単なあいさつを行う
- 役割(司会、書記、タイムキーパーなど)やタイムスケジュールを決める
- それぞれの意見を出し合ったり、共同作業を行ったり、ディスカッション・ワークを行う
- グループとしての意見をまとめる(成果物があるなら、成果物の制作)
- 発表する

基本的動作・姿勢の指導に関する総合討議 ワークシート

生活場面	手順	障害特性を踏まえた留意点	改善策
ベリパッド車椅子へ			
車椅子から降車へ			
浴槽のかけ入れへ			

ワークシート・イメージを示します。余白が足りない場合には、シートを用いて各動作を「相」にわけるとわかりやすいです。

ファシリテーターガイダンス(抜粋)

基本的動作・姿勢に関するケアの実践と指導方法

【ワークシートの準備】ワークシートの準備は、一人ひとりの能力や状況に応じて、適切な準備をすることで、学習の効果が最大化される。ワークシートの準備は、事前に、学習者の能力や状況を確認し、適切な準備を行うことが重要である。ワークシートの準備は、事前に、学習者の能力や状況を確認し、適切な準備を行うことが重要である。

【ワークシートの活用】ワークシートの活用は、学習者の能力や状況に応じて、適切な活用を行うことが重要である。ワークシートの活用は、事前に、学習者の能力や状況を確認し、適切な活用を行うことが重要である。

【ワークシートの評価】ワークシートの評価は、学習者の能力や状況に応じて、適切な評価を行うことが重要である。ワークシートの評価は、事前に、学習者の能力や状況を確認し、適切な評価を行うことが重要である。

7. 通信学習教材、演習用の映像)の概要

- 通信学習の教材としては、『学生のためのリハビリテーション医学概論』(医歯薬出版)を指定教本とした上で、下記のコンテンツを用意している。



公益社団法人 日本介護福祉士会
The Japan Association of Certified Care Workers

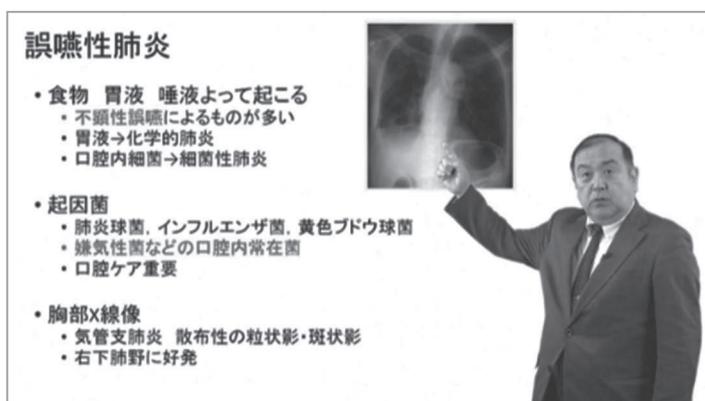
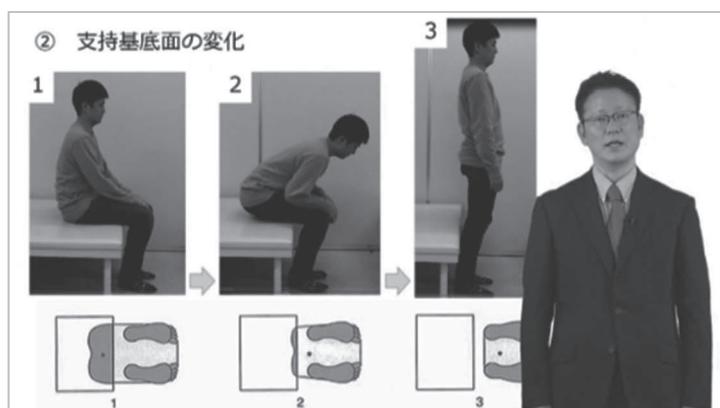
管理者 ログアウト

ホーム

チームリーダー実践・指導力向上研修

- はじめに
- 生活支援のための運動学
- 生活支援のリハビリテーションのための知識
- 研修前事前課題シート
- 事前アンケート ※事前提出
- 受講者アンケート (2日目)
- 3日目研修に向けた事前課題

- インフォメーション
- メンタリングボックス
- よくある質問



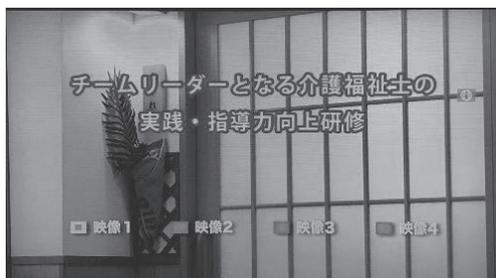
誤嚥性肺炎

- 食物 胃液 唾液よって起こる
 - 不顕性誤嚥によるものが多い
 - 胃液→化学的肺炎
 - 口腔内細菌→細菌性肺炎
- 起因菌
 - 肺炎球菌, インフルエンザ菌, 黄色ブドウ球菌
 - 嫌気性菌などの口腔内常在菌
 - 口腔ケア重要
- 胸部X線像
 - 気管支肺炎 散在性の粒状影・斑状影
 - 右下肺野に好発

8. 演習用の映像教材の概要

- ・ 情報が少ない中で患者の現状や情報の概要を整理できる力の育成を図るため、演習用の映像教材を用意している。

開始画面



映像1 「ベッドから車いすへ移乗介助」の映像(演習の最初に視聴、3分)



資料1 患者情報シート (グループワーク開始後に配布)

映像2 詳細な生活場面の映像 (グループワークの途中で視聴、3分)



映像3 施設の状況の映像(グループワークの途中で視聴、3分)



映像4 施設で実際に行っている移乗介助動作(グループワークの最後に視聴、3分)

9. 研修受講の手引き

チームリーダー実践・指導力向上研修 受講の手引き

本手引きは、日本介護福祉士会で開発を進めている「チームリーダー実践・指導力向上研修」のモデル研修の受講方法を示したものです。

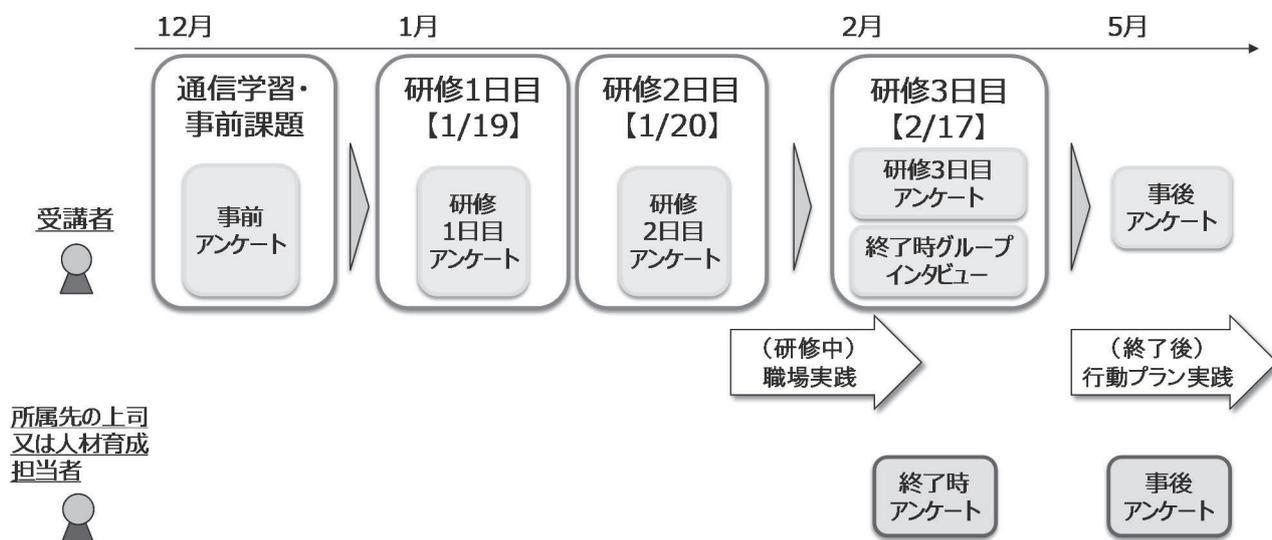
手引きを踏まえて、通信学習システム上で通信学習、事前課題シートの記入、事前課題アンケートの回答をあらかじめ終えた上で、集合研修1日目（平成31年1月19日（土）開催）にご参加ください。

1. モデル研修のねらいと検証方法

現在、日本介護福祉士会では平成30年度厚生労働省老健保険健康増進等事業の補助を受けて、「介護人材の機能分化促進に向けたチームリーダーとなる介護福祉士の育成に係る研修ガイドライン策定事業」を実施しています。本事業では、福祉人材確保専門委員会で示されたリーダーとして担うべき役割のうち、「①高度な技術を有する介護の実践者としての役割」、「②介護技術の指導者としての役割」に係るチームリーダー向け研修プログラムの一体的な開発と、その検証を通じた研修ガイドライン策定を検討しています。

ワーキング・グループで検討を進めてきた研修プログラムが妥当であり、かつ現場で活用しやすいものとなるよう、モデル的に研修を実施します。つきましては趣旨をご理解の上、受講者の方は研修の受講と合わせて、アンケート・インタビューへのご協力をお願いいたします。

アンケート回答は統計的に処理され、調査結果から個人が特定されることはございません。アンケートの自由記述の内容とインタビューでお伺いした内容は、回答者名を特定しない形で報告書に掲載させて頂く場合がありますのでご了承ください。



集合研修前の宿題①

通信学習システム上で、平成31年1月11日（金）までに「事前アンケート」にご回答ください。

2. 研修カリキュラム

- この研修では、「疾患・障害等がある人への基本的動作・姿勢に関するケアの実践と指導方法」と、「ケアの指導方法（例として認知症ケアを取り上げる）」について学びます。
- 認定介護福祉士養成研修（I類）の「リハビリテーションに関する領域」に含まれる「生活支援のための運動学」及び「生活支援のためのリハビリテーションの知識」の2科目の読み替えを可とする想定です。
- 通信学習及び事前課題に取り組んだ後、集合研修（3日間）にご参加ください。

実施方法	内容	時間数
①通信学習 (~1/18)	・生活支援のための運動学 ・生活支援のためのリハビリテーションの知識 ※イーラーニング教材及び指定教本「学生のためのリハビリテーション医学概論」(医歯薬出版)を活用	13.5時間
②事前課題 (1/11~切)	・チームメンバーの中から指導対象としたい人を考え、「事前課題シート」に記入する	-
③集合1日目 (1/19)	・指導法に関する講義・演習 ・「職場実践計画①(面談とOJT実践書作成)」の作成 ・生活支援のためのリハビリテーションの知識に関する講義・演習・実技	6時間
④集合2日目 (1/20)	・生活支援のためのリハビリテーションの知識に関する筆記試験 ・基本的動作・姿勢の実践及び指導に関する講義・演習・総合討議 ・「職場実践計画②(基本的動作・姿勢の実践と指導)」の作成	6時間
⑤職場実践 (1/21~ 2/16)	・職場実践計画に基づく取り組みの実施 ・「振り返りシート」の作成	(1ヶ月間)
⑥集合3日目 (2/17)	・「振り返りシート」に基づく職場実践の共有 ・研修のまとめ	6時間

3. 通信学習の受講方法

集合研修前の宿題②

集合研修の受講までに、「生活支援のための運動学」と「生活支援のリハビリテーションのための知識」に関する通信学習を行ってください。

学習時は、配布された指定教本「学生のためのリハビリテーション医学概論」(医歯薬出版)をご用意ください。

学習の進め方は3~4ページ目をご覧ください。

(1) 生活支援のための運動学

<学習内容>

- 本科目には以下の6つの学習内容が含まれ、全ての内容を通信学習で学びます。

1. 身体表面のランドマークの名称
2. 骨、関節、筋、中枢神経・末梢神経などの解剖・運動
3. 内部器官の運動時の整理
4. 身体運動の基本的知識
5. 運動の基本的な力学的な考え方
6. 摂食嚥下における解剖・運動生理

<学習時間>

450分

<学習手順>

- 学習内容ごとに (A) 自己学習 (指定テキストの確認)、(B) e-learning、(C) 到達度試験が用意されています。
- 下記に示した学習手順に従って学習を進めてください。到達度試験を合格 (正答率 60%以上) すれば修了となります。
- 不合格の場合、間違った設問に関する学習を行った上で、再度試験を受けてください。

■学習内容 1,2,3

学習手順	時間	学習方法
(A) 自己学習	250分	指定教本の第4、5、10、11章を読んでください。
(B) e-learning	50分	コンテンツ①身体表面のランドマークの名称 (10分)、コンテンツ②骨、関節、筋、中枢神経・末梢神経などの解剖・運動 (23分)、コンテンツ③内部器官の運動時の整理 (17分) を聴講してください。
(C) 到達度試験	-	34問の試験に回答してください。

■学習内容 4,5

学習手順	時間	学習方法
(A) 自己学習	100分	スライド資料をダウンロードして読んでください。
(B) e-learning	20分	コンテンツ④身体運動の基本的知識 (8分)、コンテンツ⑤運動の基本的な力学的な考え方 (12分) を聴講してください。
(C) 到達度試験	-	15問の試験に回答してください。

■学習内容 6

学習手順	時間	学習方法
(A) 自己学習	25分	指定教本 p157~160 (第7章 1.脳血管障害 4) 機能障害 1.嚥下障害) を読んでください。
(B) e-learning	5分	コンテンツ⑥摂食嚥下における解剖・運動生理 (5分) を聴講してください。
(C) 到達度試験	-	5問の試験に回答してください。

(2) 生活支援のリハビリテーションのための知識

<学習内容>

- 本科目には以下の7つの学習内容が含まれ、そのうち1、3を通信学習で学びます。
- 2及び4～7は集合研修で学びます。
 1. リハビリテーションの理念
 2. 心身の評価とアプローチ
 3. 各日常生活動作における各関節・筋の運動、および上肢・体幹・下肢の相互関係
 4. 運動学的視点を生活支援に活かす考え方
 5. 生活支援の中で活かすリハビリテーションの視点
 6. 心理的な理解を生活支援に活かす考え方
 7. リハ職種との連携・協働を行うために必要な視点と知識

<学習時間>

900分

<学習手順>

- 学習内容ごとに(A)自己学習(指定テキストの確認)、(B)e-learning、(C)到達度試験が用意されています。
- 下記に示した学習手順に従って学習を進めてください。到達度試験を合格(正答率60%以上)すれば修了となります。
- 不合格の場合、間違った設問に関する学習を行った上で、再度試験を受けてください。

■学習内容1

学習手順	時間	学習方法
(A) 自己学習	150分	指定教本の第1、2、3章を読んでください。
(B) e-learning	30分	コンテンツ⑦リハビリテーションの理念(30分)を聴講してください。
(C) 到達度試験	-	15問の試験に回答してください。

■学習内容3

学習手順	時間	学習方法
(A) 自己学習	155分	スライド資料をダウンロードして読んでください。
(B) e-learning	25分	コンテンツ⑧各日常生活動作における各関節・筋の運動、および上肢・体幹・下肢の相互関係(25分)を聴講してください。
(C) 到達度試験	-	13問の試験に回答してください。

4. 事前課題シートの記入方法

集合研修前の宿題③

通信学習システム上で、平成 31 年 1 月 11 日（金）までに**事前課題シート**にご記入ください。

(1) 事前課題のねらい

集合研修 2 日目と 3 日目の間の 1 ヶ月間、職場実践として、あなたの職場の後輩職員に面談を行っていただく予定です。そのための準備として、事前課題シートを用意しています。

あなたが分かる範囲で構いませんので、シートにご記入ください。

(2) 記入項目

1. 指導対象候補の職員はどのような人ですか。

- 職場の後輩職員のなかから、指導対象候補を 1 名選び、その人について記入してください。
- 職員の氏名は記入しないでください。
- 職場実践では、その職員と面談を行い、今後の目標を設定して、具体的な学習計画を作成します。これからの成長を特に期待したい職員を候補に選ぶとよいでしょう。

2. 指導対象候補の職員の認知症ケアの知識、経験、強みを教えてください。

- 指導対象候補の職員の認知症ケアに関する知識（研修の受講歴、取得した資格など）、経験（経験年数、経験実績など）、強み（得意なこと、上手なことなど）について、あなたがわかる範囲で記入してください。

3. 指導対象候補の職員とともにケアをより良くしたい利用者はどのような人ですか。

- 自施設の利用者のなかから、指導対象候補の職員とともにケアをより良くしたい人を 1 名選び、その人の状態像や生活上の目標（あるいはケアの課題）を記入してください。
- 利用者の氏名は記入しないでください。

5. 集合研修のご案内

(1) 開催日時

- 1日目：平成31年1月19日（土）10時から17時まで
- 2日目：平成31年1月20日（日）10時から17時まで
- 3日目：平成31年2月17日（日）10時から18時まで

(2) 会場

東洋大学 朝霞キャンパス（埼玉県朝霞市岡48-1）

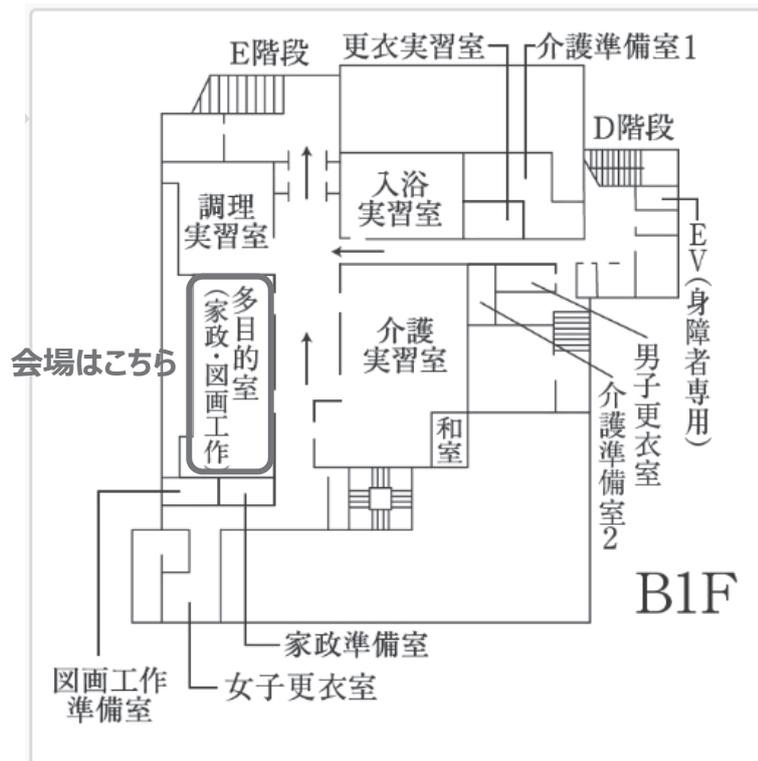
図書館（生活支援学科実習棟）地下1階 多目的室

<交通アクセス>

東武東上線「朝霞台」駅または、JR 武蔵野線「北朝霞」駅下車、徒歩10分
（朝霞台駅は池袋駅から15分）



<図書館（生活支援学科実習棟）地下1階マップ>



(3) 服装と持参するもの

- グループワークで実技が伴うことを考慮した服装でお越しください。(更衣室も用意しています)

日程	持参物
1日目：平成31年1月19日（土）	<ul style="list-style-type: none"> ・筆記用具 ・シューズ、(着替え) ・指定教本
2日目：平成31年1月20日（日）	<ul style="list-style-type: none"> ・筆記用具 ・シューズ、(着替え) ・指定教本
3日目：平成31年2月17日（日）	<ul style="list-style-type: none"> ・筆記用具 ・シューズ、(着替え) ・指定教本 ・職場実践計画①、②a、②b ・振り返りシート①、②

6. 問い合わせ先（事前アンケート・事前課題シートの提出先）

公益社団法人日本介護福祉士会 事務局（担当：松下）

TEL：03-3507-0784 FAX：03-3507-8810 MAIL：matsushita@jaccw.or.jp

※研修当日のご連絡は090-1817-6340 をお願いします。

【介護人材の機能分化促進に向けたチームリーダーとなる介護福祉士の育成に係る研修ガイドライン策定事業】

チームリーダー実践・指導力向上研修 【運営の手引き】 (講師用)

2019年1月16日
公益社団法人日本介護福祉士会

研修運営にかかるお願い

(集合研修テキスト)

- 「講師が作成」としているスライド（講師紹介、メッセージ）について加筆をお願いします。

(事前課題シート及び事前アンケートの確認)

- 受講者が事前に提出する事前課題シート及び事前アンケートをご確認下さい。
- 記入内容を踏まえて、受講者のリーダーとしての経験レベルや、直面している課題を読み取り、研修での説明方法の工夫やグループ分けにご活用下さい。

(研修終了後のお願い)

- カリキュラムや資料の改善を図るため、講師アンケートのご回答をお願いします。

集合研修1日目 平成31年1月19日(土)

	多目的室	介護実習室	更衣室	👤 ファシリテーターA班 (認定介護福祉士)	👤 ファシリテーターB班 (リハビリテーション専門職)
9:00	9:00 講師及び事務局集合@多目的室			9:30 ファシリテーター集合、顔合わせ@多目的室	
10:00		10:00~10:05 本名委員		10:00~12:00 傍聴@実習室	講師・ファシリ紹介@実習室
11:00		10:05~12:00 大谷委員			10:30~ ファシリに関するレク@多目的室
12:00		12:00~13:00 昼休憩		12:00~13:00 @別室 大谷委員との打合せ (兼昼食)	レク後~14:00 傍聴 @介護実習室 (各自で昼休憩)
13:00		13:00~14:00 大谷委員		13:00~14:00 個人ワークのフォロー	
14:00	※必要に応じて 移動	14:10~16:40 中村委員		14:10~17:00 傍聴 @多目的室・介護実習室	14:10~17:00 グループワークへの参加 @多目的室・介護実習室
15:00		16:40~17:00 本名委員			
16:00					
17:00	17:15 振り返りミーティング (15分程度)				
18:00					

2

集合研修2日目 平成31年1月20日(日)

	多目的室	介護実習室	更衣室	👤 ファシリテーターA班 (認定介護福祉士)	👤 ファシリテーターB班 (リハビリテーション専門職)
9:00	9:30 講師及び事務局集合@多目的室			9:45 ファシリテーター集合@多目的室	
10:00	※必要に応じて 移動	10:00~10:15 本名委員		10:00~17:00 傍聴 @介護実習室・多目的室 (各自で昼休憩)	10:00~17:00 グループワークへの参加 @介護実習室・多目的室 (各自で昼休憩)
11:00					
12:00		10:15~16:30 中村委員			
13:00		16:30~17:00 本名委員			
14:00					
15:00					
16:00					
17:00	17:15 振り返りミーティング (15分程度)				
18:00					

3

集合研修3日目 平成31年2月17日(日)

	多目的室	介護実習室	更衣室	ファシリテーターA班 (認定介護福祉士)	ファシリテーターB班 (リハビリテーション専門職)
9:00	9:30 講師及び事務局集合@多目的室			9:45 ファシリテーター集合@多目的室	
10:00	10:00~10:05 本名委員			10:00~12:30 グループワークへの参加、 個人ワークのフォロー @多目的室	10:00~13:30 傍聴 @多目的室 (各自で昼休憩)
11:00	10:05~12:30 大谷委員				
12:00	12:30~13:30 昼休憩				
13:00					
14:00	13:30~15:50 中村委員	※必要に応じて 移動		12:30~17:00 傍聴 @多目的室・介護実習室 (各自で昼休憩)	13:30~15:50 グループワークへの参加 @多目的室・介護実習室
15:00					
16:00	16:10~17:00 本名委員				15:50~17:00 傍聴@多目的室
17:00	17:15~18:00 グループインタビュー			17:15~18:00 グループインタビュー	
18:00	18:15 振り返りミーティング (15分程度)				

研修当日のご案内

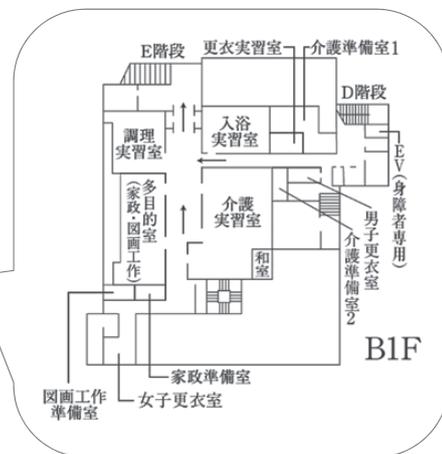
<会場> 東洋大学 朝霞キャンパス (埼玉県朝霞市岡48-1) 図書館 (生活支援学科実習棟) 地下1階 多目的室

<交通アクセス> 東武東上線「朝霞台」駅または、JR武蔵野線「北朝霞」駅下車、徒歩10分 (朝霞台駅は池袋駅から15分)

<当日の集合時間> 9時に会場にお越し下さい。



<図書館 (生活支援学科実習棟) 地下1階マップ>



【介護人材の機能分化促進に向けたチームリーダーとなる介護福祉士の育成に係る研修ガイドライン策定事業】

チームリーダー実践・指導力向上研修

【運営の手引き】

(ファシリテーター用)

2019年1月16日

公益社団法人日本介護福祉士会

研修運営にかかるお願い

(ファシリテーターの役割)

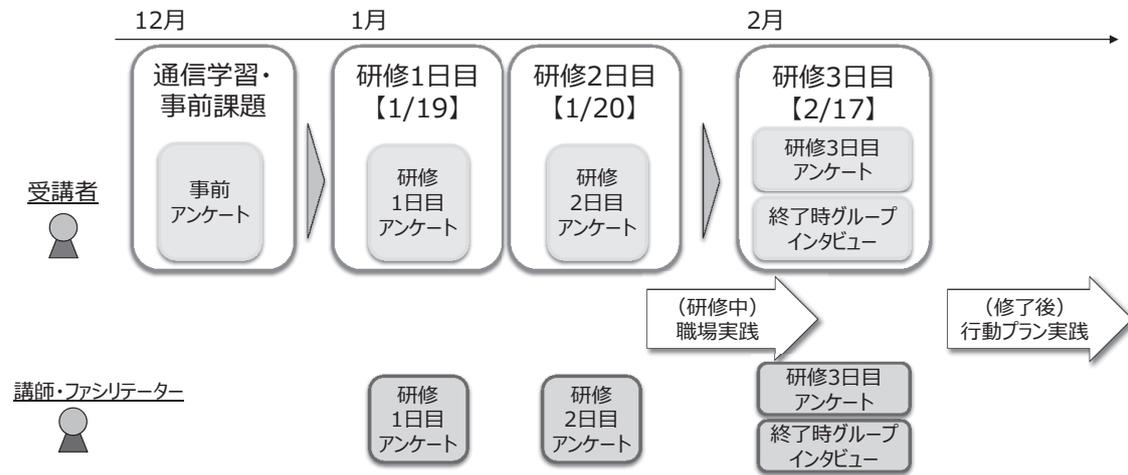
- 本研修は、「①高度な技術を有する介護の**実践者**としての役割」、「②介護技術の**指導者**としての役割」に係るチームリーダー向け研修プログラムです。
- カリキュラムはアクションラーニングの手法を基盤とし、通信学習で学んだ知識の確認（講義）と、事例を用いたグループワークや自身の実践の振り返り（演習）、職場実践を組み合わせています。
- そのため、ファシリテーターの皆様には、受講者が自分の考えや自身の実践・指導経験を共有しあい、課題や今後の取り組みを検討する「**演習**」が円滑に進むよう、**進行の支援や助言**をお願いします。

(カリキュラムについて)

- 本研修では、「A.ケアの指導方法（例として認知症ケアを取り上げる）」と、「B.疾患・障害等がある人への基本的動作・姿勢に関するケアの実践と指導方法」という2つの内容を学びます。
- モデル研修では、それぞれの内容に特化したファシリテーターを配置します。
 - ファシリテーターA班：認定介護福祉士 5名程度
 - ファシリテーターB班：リハビリテーション専門職 5名程度
- 各班のファシリテーターの研修への関わり方は次頁をご確認下さい。

モデル研修の進め方について

- モデル研修の効果や課題を把握し、継続実施に向けた改善を図るため、下記の通りアンケート・インタビューへのご協力をお願いします。
- アンケート回答は統計的に処理され、調査結果から個人が特定されることはありません。アンケートの自由記述の内容とインタビューでお伺いした内容は、回答者名を特定しない形で報告書に掲載させて頂く場合がありますのでご了承下さい。



8

集合研修1日目 平成31年1月19日(土)

	多目的室	介護実習室	更衣室	ファシリテーターA班 (認定介護福祉士)	ファシリテーターB班 (リハビリテーション専門職)
9:00	9:00 講師及び事務局集合@多目的室			9:30 ファシリテーター集合、顔合わせ@多目的室	
10:00		10:00~10:05 本名委員		10:00~12:00 傍聴@実習室	講師・ファシリ紹介@実習室
11:00		10:05~12:00 大谷委員			10:30~ ファシリに関するレク@多目的室
12:00		12:00~13:00 昼休憩		12:00~13:00 @別室 大谷委員との打合せ (兼昼食)	レク後~14:00 傍聴 @介護実習室 (各自で昼休憩)
13:00		13:00~14:00 大谷委員		13:00~14:00 個人ワークのフォロー	
14:00	※必要に応じて 移動	14:10~16:40 中村委員		14:10~17:00 傍聴 @多目的室・介護実習室	14:10~17:00 グループワークへの参加 @多目的室・介護実習室
15:00		16:40~17:00 本名委員			
16:00					
17:00	17:15 振り返りミーティング (15分程度)				
18:00					

9

集合研修2日目 平成31年1月20日(日)

	多目的室	介護実習室	更衣室	ファシリテーターA班 (認定介護福祉士)	ファシリテーターB班 (リハビリテーション専門職)
9:00	9:30 講師及び事務局集合@多目的室			9:45 ファシリテーター集合@多目的室	
10:00	※必要に応じて 移動	10:00~10:15 本名委員		10:00~17:00 傍聴 @介護実習室・多目的室 (各自で昼休憩)	10:00~17:00 グループワークへの参加 @介護実習室・多目的室 (各自で昼休憩)
11:00					
12:00					
13:00		10:15~16:30 中村委員			
14:00		16:30~17:00 本名委員			
15:00					
16:00					
17:00	17:15 振り返りミーティング (15分程度)				
18:00					

10

集合研修3日目 平成31年2月17日(日)

	多目的室	介護実習室	更衣室	ファシリテーターA班 (認定介護福祉士)	ファシリテーターB班 (リハビリテーション専門職)
9:00	9:30 講師及び事務局集合@多目的室			9:45 ファシリテーター集合@多目的室	
10:00	10:00~10:05 本名委員			10:00~12:30 グループワークへの参加、 個人ワークのフォロー @多目的室	10:00~13:30 傍聴 @多目的室 (各自で昼休憩)
11:00	10:05~12:30 大谷委員				
12:00	12:30~13:30 昼休憩				
13:00				12:30~17:00 傍聴 @多目的室・介護実習室 (各自で昼休憩)	13:30~15:50 グループワークへの参加 @多目的室・介護実習室
14:00	13:30~15:50 中村委員				
15:00					
16:00	16:10~17:00 本名委員				15:50~17:00 傍聴@多目的室
17:00	17:15~18:00 グループインタビュー			17:15~18:00 グループインタビュー	
18:00	18:15 振り返りミーティング (15分程度)				

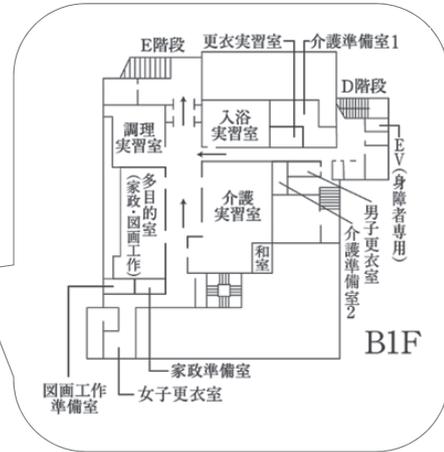
11

研修当日のご案内

- <会場> 東洋大学 朝霞キャンパス (埼玉県朝霞市岡48-1) 図書館 (生活支援学科実習棟) 地下1階 多目的室
- <交通アクセス> 東武東上線「朝霞台」駅または、JR武蔵野線「北朝霞」駅下車、徒歩10分 (朝霞台駅は池袋駅から15分)
- <当日の集合時間> 9時に会場にお越し下さい。



<図書館 (生活支援学科実習棟) 地下1階マップ>



【介護人材の機能分化促進に向けたチームリーダーとなる介護福祉士の育成に係る研修ガイドライン策定事業】

チームリーダー実践・指導力向上研修

【運営の手引き】

(事務局用)

2019年1月16日
公益社団法人日本介護福祉士会

主な実施事項

- | | |
|---|---|
| <p>1. 準備段階</p> <p>(1) 参加申込</p> <ul style="list-style-type: none"> 募集要項・申込書の作成（日程、会場、定員、講師・ファシリテーターの手配・確定） 周知、申込受付、名簿取りまとめ、グループ分け（初日は自由席） <p>(2) 評価ツールの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケート調査票（受講者、講師、ファシリテーター、法人用の4種類） <p>(3) 集合研修の開催準備</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料印刷（研修資料、配布用の受講者名簿、参加者アンケート） 上映用PPTデータ（必要に応じてPC） タイムテーブル 講師飲み物、弁当 | <p>2. 実施段階</p> <p>(1) 受講者とのやり取り</p> <ul style="list-style-type: none"> 受講決定通知書及び研修の手引きの送付 事前課題及び事前アンケートの受領・督促、取りまとめ 周知、申込受付、名簿取りまとめ、グループ分け <p>(2) 通信学習の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 問合せ対応、履修状況の取りまとめ <p>(3) 集合研修の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 講師・ファシリテーターとのミーティング 受付 ワークシートやアンケートの回収・コピー 写真及び動画撮影 |
|---|---|

検証活動の概要

	事前	1日目	2日目	3日目
資料配布	<ul style="list-style-type: none"> モデル研修の進め方について 事前課題シート 受講者アンケート（事前） ※イーラーニング上で授受 ※研修IDを伝える 	<ul style="list-style-type: none"> 事前提出された事前課題シート 集合研修1日目進め方 各科目の資料 ワークシート1日目 受講者アンケート(1日目) 	<ul style="list-style-type: none"> 集合研修2日目進め方 リハ科目の資料 ワークシート2日目 受講者アンケート(2日目) 	<ul style="list-style-type: none"> 集合研修3日目進め方 ワークシート3日目 受講者アンケート(3日目)
資料回収	<ul style="list-style-type: none"> 受講者アンケート(事前) 事前課題シートのコピー ※イーラーニング上で授受 	<ul style="list-style-type: none"> 職場実践計画①のコピー 受講者アンケート(1日目) 	<ul style="list-style-type: none"> 職場実践計画②a、②bのコピー 受講者アンケート(2日目) 	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りシート及び行動プラン案のコピー 受講者アンケート(3日目)
検証活動		<ul style="list-style-type: none"> 動画撮影 写真撮影 講師アンケート(1日目)の回収 	<ul style="list-style-type: none"> 動画撮影 写真撮影 講師アンケート(2日目)の回収 	<ul style="list-style-type: none"> 動画撮影 写真撮影 講師アンケート(3日目)の回収

（留意事項）

- アンケート、事前課題、ワークで用いる資料には、研修IDを記入してもらう。（個人情報無し）
- 事前課題の未提出者がいる場合、研修当日に記入できるよう、予備を用意しておく。
- アンケート、事前課題、ワークで用いた資料や写真は、公表される報告書に掲載する旨がある旨、申込時点で受講者の同意を得る。
- 回収資料のPDFファイルは、事務局から日本総研に共有する（日本総研にて入力・集計を行う）。

集合研修1日目 平成31年1月19日(土)

	多目的室	介護実習室	更衣室	資料配布・回収	その他ロジ
9:00	9:00 講師及び事務局集合@多目的室			・資料、事前課題シート配布	・会場開錠 ・PC確認 (上映資料、動画)
10:00		10:00～10:05 本名委員			
11:00		10:05～12:00 大谷委員			
12:00		12:00～13:00 昼休憩			・昼食手配
13:00		13:00～14:00 大谷委員		・職場実践計画①回収・コピー・返却	
14:00	※必要に応じて 移動	14:10～16:40 中村委員			
15:00		16:40～17:00 本名委員			
16:00				・受講者アンケート (1日目) 回収	
17:00	17:15 振り返りミーティング@多目的室			・講師・ファシリアンケート (1日目) 回収	・振り返りミーティング
18:00					・会場施錠 (19時まで)

16

集合研修2日目 平成31年1月20日(日)

	多目的室	介護実習室	更衣室	資料配布・回収	その他ロジ
9:00	9:30 講師及び事務局集合@多目的室			・資料配布	・会場開錠 ・PC確認 (上映資料、動画)
10:00	※必要に応じて 移動			・到達度試験の回収 (・コピー・返却)	
11:00					
12:00		10:00～10:15 本名委員			・昼食手配
13:00		10:15～16:30 中村委員			
14:00		16:30～17:00 本名委員			
15:00					
16:00				・職場実践計画②a,b回収・コピー・返却 ・受講者アンケート (2日目) 回収	
17:00	17:15 振り返りミーティング (15分程度)			・講師・ファシリアンケート (2日目) 回収	・振り返りミーティング
18:00					・会場施錠 (19時まで)

17

集合研修3日目 平成31年2月17日(日)

	多目的室	介護実習室	更衣室	資料配布・回収	その他ロジ
9:00	9:30 講師及び事務局集合@多目的室			・資料配布	・会場開錠 ・PC確認 (上映資料、動画)
10:00	10:00~10:05 本名委員				
11:00	10:05~12:30 大谷委員				
12:00	12:30~13:30 昼休憩			・振り返りシート①、行動プラン①回収・コピー・返却	・昼食手配
13:00					
14:00	13:30~15:50 中村委員				
15:00					
16:00	16:10~17:00 本名委員			・振り返りシート②、行動プラン②a,b回収・コピー・返却	
17:00	17:15~18:00 グループインタビュー				・グループインタビュー実施
18:00	18:15 振り返りミーティング@多目的室			・受講者アンケート (3日目) 回収 ・講師・ファシリタート (3日目) 回収	・振り返りミーティング ・会場施錠 (19時まで)

※必要に応じて移動

11. 評価ツール

日本介護福祉士会 チームリーダー実践・指導力向上研修

事前アンケート ※事前提出

この事前評価ツールは、研修受講前に、リーダーとしての現在の実践状況や、取り組みにあたっての不安感を自己評価頂き、研修に期待すること等を把握するためのものです。

研修ID	
------	--

リーダーとしての取り組み項目に関して、あなたの現在の実践状況と、取り組みにあたっての不安感をお伺いします。各項目についてあなたの気持ちに最も近い番号を一つ選び、○をつけて下さい。

項目	内容	問1. リーダーとしての現在の実践状況				問2. 取り組みにあたっての不安感			
		い 1 行 っ て い な	て 2 い あ ま り 行 っ て	い 3 あ る や や 行 っ て	4 行 っ て い る	を 1 感 じ る 不 安	感 2 じ や る 不 安 を	を 3 感 じ ま い 不 安	感 4 じ 全 く い 不 安 を
チームの状況の把握	スタッフとの面談の機会を作り、目標、強み・弱み、悩みを把握する。	1	2	3	4	1	2	3	4
	会議や勉強会で自分の意見を述べ、スタッフの意見を引き出す。	1	2	3	4	1	2	3	4
	チームの目標と課題を把握し、スタッフと共有する。	1	2	3	4	1	2	3	4
チーム外との連携	必要に応じて、他部署の介護職に相談・協力を求める。	1	2	3	4	1	2	3	4
	ケアカンファレンス等において法人内の他職種と円滑に情報共有・意見交換を行う。	1	2	3	4	1	2	3	4
	病院等の法人外の他職種と円滑に情報共有・意見交換を行う。	1	2	3	4	1	2	3	4
業務改善	組織の理念・方針を自分で解釈した上で、スタッフに伝達する。	1	2	3	4	1	2	3	4
	業務の改善に向けた問題意識を持ち、企画・提案を行う。	1	2	3	4	1	2	3	4
	提案を実現するため、検討の場を設ける等、スタッフの関心・関与を引き出す。	1	2	3	4	1	2	3	4
	リーダーの役割・責任を理解し、期待されている行動を取る。	1	2	3	4	1	2	3	4
スタッフへの働きかけ	スタッフの理解度に応じて、ケアの助言・指導を行う。	1	2	3	4	1	2	3	4
	スタッフ同士が経験を共有する機会を作り、チームとしてのノウハウ蓄積を促す。	1	2	3	4	1	2	3	4
自己啓発	率先して研修等に参加し、リーダーとしての成長を図る。	1	2	3	4	1	2	3	4
	リーダー業務で悩んだ時に、法人内外のリーダーに相談する。	1	2	3	4	1	2	3	4

項目	内容	問1. リーダーとしての 現在の実践状況				問2. 取り組みにあたって の不安感			
		い 1 行 っ て い な	て 2 い あ ま り 行 っ て	い 3 あ る や り 行 っ て	4 行 っ て い る	を 1 感 じ る 不 安	感 2 か や り 不 安 を	を 3 感 あ ま り 不 安	感 4 あ ま り 不 安 を
様々なニーズを持つ利用者への対応	認知症の症状に応じて適切な対応を判断し、ケアを提供する。	1	2	3	4	1	2	3	4
	医療やリハビリの必要性が高い方の病状に応じて適切な対応を判断し、ケアを提供する。	1	2	3	4	1	2	3	4
	終末期の方の心身の状況等に応じて適切な対応を判断し、ケアを提供する。	1	2	3	4	1	2	3	4
	障害の特性に応じて適切な対応を判断し、ケアを提供する。	1	2	3	4	1	2	3	4
	複合的な支援ニーズを抱える家族等の状況に応じて適切な対応を判断し、多職種と情報共有を行う。	1	2	3	4	1	2	3	4
リハビリテーションに関する知識の活用	生活支援に必要な運動生理の知識やリハビリテーションの理念・知識を活用し、リハ職種と連携しつつ生活を支援する。	1	2	3	4	1	2	3	4
	新しい介護技術や介護機器について率先して学び、ケアの実践に取り入れる。	1	2	3	4	1	2	3	4
	スタッフの基本的動作・姿勢に関する介護技術の課題を把握し、根拠をもって指摘を行う。	1	2	3	4	1	2	3	4

受講者アンケート（1日目）

このアンケートは、研修直後に学習効果を把握し、研修内容の改善や、今後の自己学習のポイント整理に役立てるものです。

研修ID	
------	--

■人材育成手法及びOJT実践書の作成・運用に関する講義・演習について

問1. 本日の講義・演習について、あなたの気持ちに最も近い番号を一つ選び、○をつけて下さい。

	1	2	3	4	5
	全くあてはまらない	あてはまらない	どちらともいえない	あてはまる	よくあてはまる
1) 講義・演習には満足した	1	2	3	4	5
2) 講義・演習の内容はテーマに照らして適切であった	1	2	3	4	5
3) 講義・演習の内容はリーダー業務に活かそうだ	1	2	3	4	5
4) 講義・演習を通じてリーダーとしての自信が高まった	1	2	3	4	5

問2. 講義・演習の内容や方法に関して、印象に残ったところ、感想をご記入下さい。

■生活支援のためのリハビリテーションの知識に関する講義・演習について

問3. 本日の講義・演習について、あなたの気持ちに最も近い番号を一つ選び、○をつけて下さい。

	1	2	3	4	5
	全くあてはまらない	あてはまらない	どちらともいえない	あてはまる	よくあてはまる
1) 講義・演習には満足した	1	2	3	4	5
2) 講義・演習の内容はテーマに照らして適切であった	1	2	3	4	5
3) 講義・演習の内容はリーダー業務に活かせそう	1	2	3	4	5
4) 講義・演習を通じてリーダーとしての自信が高まった	1	2	3	4	5

問4. 講義・演習の内容や方法に関して、印象に残ったところ、感想をご記入下さい。

■本日の研修全体について

問5. 本日の研修を通じて、あなたのリーダーとしての実践に役立ちそうだと思うことは何ですか。

問6. 本日の研修内容に関して、改善点、ご要望をご記入下さい。

ご回答ありがとうございました

委員・ファシリテーター向けアンケート（1日目） ※回答できる項目のみで結構です

委員・ファシリテーター イニシャル

■指導法について

問1.本日のカリキュラム（学習内容、時間数、使用教材）に関して、良かった点や改善点があればご記入ください。

--

問2.事前課題シートに関して、受講者の反応で気になった点や改善点があればご記入ください。

--

問3.人材育成手法に関する講義・演習（午前）に関して、受講者の反応で気になった点や改善点があればご記入ください。

--

問4.OJT実践書の作成・運用に関する講義・演習（午後イチ）に関して、受講者の反応で気になった点や改善点があればご記入ください。

--

問5.上記以外でお気づきの点がありましたらご記入ください。（受講者の要件、ファシリテーターの役割など）

--

■リハビリテーションについて

問6.本日のカリキュラム（学習内容、時間数、使用教材）に関して、良かった点や改善点があればご記入ください。

問7.通信学習に関して、受講者の反応を踏まえて気になった点や改善点があればご記入ください。

問8.本日の講義・演習に関して、受講者の反応で気になった点や改善点があればご記入ください。

問9.上記以外でお気づきの点がありましたらご記入ください。（受講者の要件、ファシリテーターの役割など）

ご回答ありがとうございました

受講者アンケート（2日目）

このアンケートは、研修直後に学習効果を把握し、研修内容の改善や、今後の自己学習のポイント整理に役立てるものです。

研修ID	
------	--

■基本的動作・姿勢の実践に関する総合討議について

問1. 本日の総合討議について、あなたの気持ちに最も近い番号を一つ選び、○をつけて下さい。

	1	2	3	4	5
	全くあてはまらない	あてはまらない	どちらともいえない	あてはまる	よくあてはまる
1) 総合討議には満足した	1	2	3	4	5
2) 総合討議の内容はテーマに照らして適切であった	1	2	3	4	5
3) 総合討議の内容はリーダー業務に活かそうだ	1	2	3	4	5
4) 総合討議を通じてリーダーとしての自信が高まった	1	2	3	4	5

問2. 総合討議の内容や方法に関して、印象に残ったところ、感想をご記入下さい。

■基本的動作・姿勢の指導に関する総合討議について

問3. 本日の総合討議について、あなたの気持ちに最も近い番号を一つ選び、○をつけて下さい。

	1	2	3	4	5
	全くあてはまらない	あてはまらない	どちらともいえない	あてはまる	よくあてはまる
1) 総合討議には満足した	1	2	3	4	5
2) 総合討議の内容はテーマに照らして適切であった	1	2	3	4	5
3) 総合討議の内容はリーダー業務に活かせそう	1	2	3	4	5
4) 総合討議を通じてリーダーとしての自信が高まった	1	2	3	4	5

問4. 総合討議の内容や方法に関して、印象に残ったところ、感想をご記入下さい。

■本日の研修全体について

問5. 本日の研修を通じて、あなたのリーダーとしての実践に役立ちそうだと思うことは何ですか。

問6. 本日の研修内容に関して、改善点、ご要望をご記入下さい。

問7.リーダーとしての取り組み項目に関して、2日間の研修を終えた現時点での不安感をお伺いします。
各項目についてあなたの気持ちに最も近い番号を一つ選び、○をつけて下さい。

項目	内容	取り組みにあたっての不安感				(1または2を選んだ項目について) どのような不安を感じるか、 具体的にご記入下さい
		を 1 感 2 か 3 じ 4 な 5 る 6 り 7 不 8 安 9	を 1 感 2 か 3 じ 4 な 5 る 6 り 7 不 8 安 9	を 1 感 2 か 3 じ 4 な 5 る 6 り 7 不 8 安 9	を 1 感 2 か 3 じ 4 な 5 る 6 り 7 不 8 安 9	
チームの状況の把握	スタッフとの面談の機会を作り、目標、強み・弱み、悩みを把握する。	1	2	3	4	
	会議や勉強会で自分の意見を述べ、スタッフの意見を引き出す。	1	2	3	4	
	チームの目標と課題を把握し、スタッフと共有する。	1	2	3	4	
チーム外との連携	必要に応じて、他部署の介護職に相談・協力を求める。	1	2	3	4	
	ケアカンファレンス等において法人内の他職種と円滑に情報共有・意見交換を行う。	1	2	3	4	
	病院等の法人外の他職種と円滑に情報共有・意見交換を行う。	1	2	3	4	
業務改善	組織の理念・方針を自分で解釈した上で、スタッフに伝達する。	1	2	3	4	
	業務の改善に向けた問題意識を持ち、企画・提案を行う。	1	2	3	4	
	提案を実現するため、検討の場を設ける等、スタッフの関心・関与を引き出す。	1	2	3	4	
	リーダーの役割・責任を理解し、期待されている行動を取る。	1	2	3	4	
スタッフへの働きかけ	スタッフの理解度に応じて、ケアの助言・指導を行う。	1	2	3	4	
	スタッフ同士が経験を共有する機会を作り、チームとしてのノウハウ蓄積を促す。	1	2	3	4	
自己啓発	率先して研修等に参加し、リーダーとしての成長を図る。	1	2	3	4	
	リーダー業務で悩んだ時に、法人内外のリーダーに相談する。	1	2	3	4	

項目	内容	取り組みにあたっての不安感				(1または2を選んだ項目について) どのような不安を感じるか、 具体的にご記入下さい
		を 1 感 2 じ 3 な 4 る 5 り 6 不 7 安 8 を 9	を 1 感 2 あ 3 じ 4 ま 5 な 6 り 7 い 8 不 9 安 0	を 1 感 2 あ 3 じ 4 ま 5 な 6 り 7 い 8 不 9 安 0	を 1 感 2 あ 3 じ 4 ま 5 な 6 り 7 い 8 不 9 安 0	
様々なニーズを持つ利用者への対応	認知症の症状に応じて適切な対応を判断し、ケアを提供する。	1	2	3	4	
	医療やリハビリの必要性が高い方の病状に応じて適切な対応を判断し、ケアを提供する。	1	2	3	4	
	終末期の方の心身の状況等に応じて適切な対応を判断し、ケアを提供する。	1	2	3	4	
	障害の特性に応じて適切な対応を判断し、ケアを提供する。	1	2	3	4	
	複合的な支援ニーズを抱える家族等の状況に応じて適切な対応を判断し、多職種と情報共有を行う。	1	2	3	4	
リハビリテーションに関する知識の活用	生活支援に必要な運動生理の知識やリハビリテーションの理念・知識を活用し、リハ職種と連携しつつ生活を支援する。	1	2	3	4	
	新しい介護技術や介護機器について率先して学び、ケアの実践に取り入れる。	1	2	3	4	
	スタッフの基本的動作・姿勢に関する介護技術の課題を把握し、根拠をもって指摘を行う。	1	2	3	4	

委員・ファシリテーター向けアンケート（2日目） ※回答できる項目のみで結構です

委員・ファシリテーター イニシャル

問1.本日のカリキュラム（学習内容、時間数、使用教材）に関して、良かった点や改善点があればご記入ください。

--

問2.筆記試験に関して、受講者の反応で気になった点や改善点があればご記入ください。

--

問3.基本的動作・姿勢の実践に関する総合討議に関して、受講者の反応で気になった点や改善点があればご記入ください。

--

問4.基本的動作・姿勢の指導に関する総合討議に関して、受講者の反応で気になった点や改善点があればご記入ください。

--

問5.上記以外でお気づきの点がありましたらご記入ください。

--

ご回答ありがとうございました

受講者アンケート（3日目）

このアンケートは、研修直後に学習効果を把握し、研修内容の改善や、今後の自己学習のポイント整理に役立てるものです。

研修ID	
------	--

■面談とOJT実践書作成の振り返り（総合討議）について

問1. 本日の総合討議について、あなたの気持ちに最も近い番号を一つ選び、○をつけて下さい。

	1	2	3	4	5
	全くあてはまらない	あてはまらない	どちらともいえない	あてはまる	よくあてはまる
1) 総合討議には満足した	1	2	3	4	5
2) 総合討議の内容はテーマに照らして適切であった	1	2	3	4	5
3) 総合討議の内容はリーダー業務に活かそうだ	1	2	3	4	5
4) 総合討議を通じてリーダーとしての自信が高まった	1	2	3	4	5

問2. 総合討議の内容や方法に関して、印象に残ったところ、感想をご記入下さい。

■**基本的動作・姿勢の実践と指導の振り返り（総合討議）**について

問3. 本日の総合討議について、あなたの気持ちに最も近い番号を一つ選び、○をつけて下さい。

	1	2	3	4	5
	全くあてはまらない	あてはまらない	どちらともいえない	あてはまる	よくあてはまる
1) 総合討議には満足した	1	2	3	4	5
2) 総合討議の内容はテーマに照らして適切であった	1	2	3	4	5
3) 総合討議の内容はリーダー業務に活かせそうだ	1	2	3	4	5
4) 総合討議を通じてリーダーとしての自信が高まった	1	2	3	4	5

問4. 総合討議の内容や方法に関して、印象に残ったところ、感想をご記入下さい。

問5.リーダーとしての取り組み項目に関して、研修を終えた現時点での不安感をお伺いします。

各項目についてあなたの気持ちに最も近い番号を一つ選び、○をつけて下さい。

項目	内容	取り組みにあたっての不安感				
		を 1 感 2 か 3 じ 4 な 5 る 6 る 7 不 8 安 9	を 1 感 2 か 3 じ 4 な 5 る 6 る 7 不 8 安 9	を 1 感 2 か 3 じ 4 な 5 る 6 る 7 不 8 安 9	を 1 感 2 か 3 じ 4 な 5 る 6 る 7 不 8 安 9	を 1 感 2 か 3 じ 4 な 5 る 6 る 7 不 8 安 9
チームの状況の把握	スタッフとの面談の機会を作り、目標、強み・弱み、悩みを把握する。	1	2	3	4	
	会議や勉強会で自分の意見を述べ、スタッフの意見を引き出す。	1	2	3	4	
	チームの目標と課題を把握し、スタッフと共有する。	1	2	3	4	
チーム外との連携	必要に応じて、他部署の介護職に相談・協力を求める。	1	2	3	4	
	ケアカンファレンス等において法人内の他職種と円滑に情報共有・意見交換を行う。	1	2	3	4	
	病院等の法人外の他職種と円滑に情報共有・意見交換を行う。	1	2	3	4	
業務改善	組織の理念・方針を自分で解釈した上で、スタッフに伝達する。	1	2	3	4	
	業務の改善に向けた問題意識を持ち、企画・提案を行う。	1	2	3	4	
	提案を実現するため、検討の場を設ける等、スタッフの関心・関与を引き出す。	1	2	3	4	
	リーダーの役割・責任を理解し、期待されている行動を取る。	1	2	3	4	
スタッフへの働きかけ	スタッフの理解度に応じて、ケアの助言・指導を行う。	1	2	3	4	
	スタッフ同士が経験を共有する機会を作り、チームとしてのノウハウ蓄積を促す。	1	2	3	4	
自己啓発	率先して研修等に参加し、リーダーとしての成長を図る。	1	2	3	4	
	リーダー業務で悩んだ時に、法人内外のリーダーに相談する。	1	2	3	4	

項目	内容	取り組みにあたっての不安感				(1または2を選んだ項目について) どのような不安を感じるか、 具体的にご記入下さい
		を 1 感 じ る 不 安	感 2 じ や る 不 安 を	を 3 感 じ ま り い 不 安	感 4 あ じ な く い 不 安 を	
様々なニーズを持つ利用者への対応	認知症の症状に応じて適切な対応を判断し、ケアを提供する。	1	2	3	4	
	医療やリハビリの必要性が高い方の病状に応じて適切な対応を判断し、ケアを提供する。	1	2	3	4	
	終末期の方の心身の状況等に応じて適切な対応を判断し、ケアを提供する。	1	2	3	4	
	障害の特性に応じて適切な対応を判断し、ケアを提供する。	1	2	3	4	
	複合的な支援ニーズを抱える家族等の状況に応じて適切な対応を判断し、多職種と情報共有を行う。	1	2	3	4	
リハビリテーションに関する知識の活用	生活支援に必要な運動生理の知識やリハビリテーションの理念・知識を活用し、リハ職種と連携しつつ生活を支援する。	1	2	3	4	
	新しい介護技術や介護機器について率先して学び、ケアの実践に取り入れる。	1	2	3	4	
	スタッフの基本的動作・姿勢に関する介護技術の課題を把握し、根拠をもって指摘を行う。	1	2	3	4	

ここからは通信学習、集合研修1～3日目、職場実践を含めた研修全体についてお伺いします。

問6. 本研修について、あなたの気持ちに最も近い番号を一つ選び、○をつけて下さい。

	1	2	3	4	5
	全くあてはまらない	あてはまらない	どちらともいえない	あてはまる	よくあてはまる
1) 本研修には満足した	1	2	3	4	5
2) 本研修はテーマに照らして適切であった	1	2	3	4	5
3) 研修内容はリーダー業務に活かそうだ	1	2	3	4	5
4) 本研修を通じてリーダーとしての自信が高まった	1	2	3	4	5
5) 本研修を通じてリーダー業務について相談できる人脈を得た	1	2	3	4	5
6) 本研修が継続的に実施される場合、同僚や後輩に参加を勧めたい	1	2	3	4	5
7) 本研修が継続的に実施される場合、自分で再度受講したい	1	2	3	4	5

問7. 研修内容や研修方法に関して、印象に残ったところや、改善点、ご要望をご記入下さい。

問8. 本研修を通じて、あなたのリーダーとしての実践に役立ちそうだと考えたことは何ですか。

あなたのご経験についてお伺いします。

問9. 介護の仕事の経験年数

年 ヶ月

問10. 保有資格（あてはまるもの全てに○）

- | | |
|---|-----------------------|
| 1. 介護福祉士 | 2. 社会福祉士 |
| 3. 介護職員実務者研修修了者（訪問介護員養成施設研修1級・基礎研修修了者を含む） | |
| 4. 介護職員初任者研修修了者（訪問介護員養成施設研修2級修了者を含む） | |
| 5. 医療的ケア（喀痰吸引等）研修修了者 | 6. 保健師 |
| 7. 介護支援専門員（ケアマネジャー） | 8. 管理栄養士・栄養士 |
| 9. 精神保健福祉士 | 10. 機能訓練指導員（PT・OT・ST） |
| 11. 認知症介護実践研修修了者 | 12. 臨床心理士 |
| 13. 看護師・准看護師 | 14. 該当する資格はもっていない |

問11. 現在の役職・役割（あてはまるもの一つに○）

1. 介護職員（一般職）
2. ユニットやフロア等のチームリーダー
3. 介護の現場スタッフの教育担当、スーパーバイザー（専任）
4. 管理職
5. その他（具体的に： _____)

問12. 介護の仕事におけるリーダー業務の経験年数

- ※リーダー業務とは、問11の選択肢2、3、4を指します。
- ※リーダー業務の経験が無い場合は、0をご記入ください。

年 ヶ月

問13. リーダーシップやチームマネジメントに関する研修の受講経験

（あてはまるもの全てに○）

- | | |
|---------------------|-------------------------------|
| 1. ファーストステップ研修 | 2. 福祉職員キャリアパス対応生涯研修（チームリーダー編） |
| 3. 認定介護福祉士養成研修 | 4. 所属事業者内の研修 |
| 5. その他（研修名： _____) | |

問14. リーダーとしてのスキルを高める上で、今後学習したいと思う領域
(あてはまるもの全てに○)

1. 医療に関する領域 (疾患・障害等のある人への生活支援・連携)
2. リハビリテーションに関する領域
3. 福祉用具と住環境に関する領域
4. 認知症に関する領域
5. 心理・社会的支援の領域 (心理的支援、地域生活の継続と家族支援等)
6. 生活支援・介護過程に関する領域 (介護実践の視点、個別介護計画作成と記録、事例演習)
7. マネジメントに関する領域 ①介護サービスの特性と求められるリーダーシップ、人的資源の管理
8. マネジメントに関する領域 ②チームマネジメント
9. マネジメントに関する領域 ③介護業務の標準化と質の管理
10. マネジメントに関する領域 ④法令理解と組織運営
11. マネジメントに関する領域 ⑤介護分野の人材育成と学習支援
12. 自立に向けた介護実践の指導領域

問15. リーダーとしてのスキルを高める上で、今後学習したいと思うことを具体的にご記入下さい。

ご回答ありがとうございました

委員・ファシリテーター向けアンケート（3日目） ※回答できる項目のみで結構です

委員・ファシリテーター イニシャル

■面談とOJT実践書作成の振り返りについて

問1.受講者の反応で気になった点や改善点があればご記入ください。

--

問2.ファシリテーターの関わりに関して気になった点や改善点があればご記入ください。

--

■基本的動作・姿勢の実践と指導の振り返りについて

問3.受講者の反応で気になった点や改善点があればご記入ください。

--

問4.ファシリテーターの関わりに関して気になった点や改善点があればご記入ください。

--

■研修のまとめについて

問5.受講者の反応で気になった点や改善点があればご記入ください。

--

■本日の研修について

問6.本日のカリキュラム（学習内容、時間数、使用教材）に関して、良かった点や改善点があればご記入ください。

問7.上記以外でお気づきの点がありましたらご記入ください。

■通信学習、集合研修1～3日目、職場実践を含めた研修全体について

問8.研修全体を振り返って、良かった点や改善点があればご記入ください。

ご回答ありがとうございました

平成 30 年度厚生労働省老人保健事業推進費等補助金(老人保健健康増進等事業)

介護人材の機能分化促進に向けたチームリーダーとなる
介護福祉士の育成に係る研修ガイドライン策定事業

別冊
チームリーダー実践・指導力向上研修
ガイドライン

平成 31 年 3 月

公益社団法人日本介護福祉士会